

『でえらあすげえぜ！カブトガニ』ワークショップ@岐阜県大垣市赤坂の展開

藤田敦子（百科編集部）・田中一秀（百科編集部/日本カブトガニを守る会）・
岩崎由美子（日本カブトガニを守る会）・服部左代子（百科編集部）

はじめに

岐阜県大垣市赤坂にある金生山は日本古生物発祥の地ともいわれ、約2億6000万年ほど前の古生代ペルム紀後期の化石を多く産出している。その中には、三葉虫 (*Pseudophillipsia* sp.) も含まれる。岐阜県には海はないが、かつては赤道近くのサンゴ礁の海であった。カブトガニは三葉虫の近縁種であり、生きている化石とも言われるくらいで、地球史を生き残ってきた種でもある。三葉虫研究をアメリカ自然史博物館で断続平衡説を提唱したナイルズ・エルドリッジ博士のもとで研究し、その中でカブトガニの研究と保護活動も始めた岩崎由美子博士が、福岡での仕事の帰路、金生山を訪問することになり、博士のテーマのひとつでもあるアメリカに本拠地のある NGO「Ecological Research and Development Group (ERDG)」主催のヤングボイス・カブトガニアートという国際アートコンクールに子どもたちの絵を送るイベントに協力し、生き物・ふるさとを学び、この時間を楽しめるワークショップを、この赤坂金生山でできないか、と考えた。

実践

日時 2017年5月14日（日）14時～16時
会場 大垣市赤坂地区センター（金生山そば）
参加人数 合計19名（大人13名、小～高校生3名、未就学児3名）
講師 岩崎由美子 Ph. D
標本借用 岐阜県博物館より4体
その他協力 笠岡市立カブトガニ博物館、松田道一さん他

- ①受け付けた人には、カブトガニ型の名札を書いて（描いて）もらう
- ②岩崎講師のカブトガニ視線で見る地球史のパワーポイントを投影し、藤田が原稿を朗読する。PPTの中のイラストはかなりの部分で田中が描き起こしたものであった。
- ③講師の指導により、標本の観察と質疑応答



ERDG

「ヤングボイス・カブトガニアート」の作品募集
アメリカ、オクラホマ州にあるNPO法人、Ecological Research & Development Group Inc. (<http://www.erdg.org>) が主催で毎年、幼児から高校生までの「カブトガニアート」を世界中から広く募集しています。優秀作品はERDGが編集する本に載ります。

カブトガニアートコンテストについて

- コンテストの目的
毎年最数が盛りつつあるカブトガニに対する思い、メッセージ等を、将来を担う子供達の視点で表現してもらいます。その作品を通じて、他の子供達にももちろん、一人でも多くの大人達にもカブトガニへの関心の輪を広げて行く事が目的です。
- 作品応募資格
○年齢
・カブトガニに対する思い、興味、関心その他を自由に表現
○応募作品
・カブトガニの絵、イラスト、イメージ画、詩、物語、その他、またはその組み合わせによる作品
・応募後自身のオリジナルで国内外未発表のものに限ります（各6名まで応募可）
○応募資格
・保育園児・幼稚園児を含む未就学児から高校3年生までの児童、生徒、学生
○締め切り
・毎年6月15日（現地での締切は6月15日となります）
○応募先
〒811-0202 福岡県福岡市西区大字元福7-4-4 遠坂先生
九州大学工学部工学教育 環境社会部門 生動工学研究室 三葉虫研究有権カブトガニ・アート事務局
「ヤングボイス・カブトガニアート課」 岩崎由美子 Ph. D. y.usaki@erdcil.hyogo.ac.jp
- 作品について
・絵はA4サイズを最大とし、それ以上大きい場合は（例えば縦用紙）はA3（1/2冊まで）とする。
・コンピュータでの印刷はA4サイズに印刷。
・素材は紙の質、色紙、クレヨン、マジック、サインペン、折り紙、その他自由。
・詩、物語、またはその組み合わせによる作品（A4サイズに印刷）。
・最終的な応募作品は完成品を郵送（1/2冊まで）。

応募したファイル名をメールで遠坂先生に応募の方は erdg@erdcil.hyogo.ac.jpまでお願いします。その際、申込み用紙に必要事項を書き込んで一緒にメールして下さい。申込み用紙には必ずメールアドレス（保護者又は教師の）記入をお願いします。発表のお知らせが届きます。



④子どもにはERDG 応募向けのカブトガニの絵を描いてもらい、大人にはペーパークラフトを楽しんでもらった(実際には難しくて完成まで至った人はいなかった)。

⑤ヤングボイスの応募作品を提出した子どもたちには、染め用の生塗りコースターを1枚プレゼントし、染めペンやカブトガニの消しゴムはんこで、自由作品を作ってもらい、おみやげとした。



結果

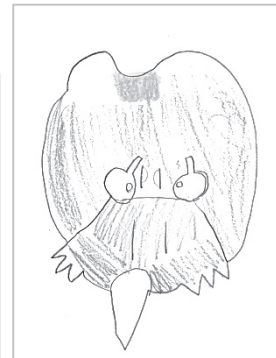
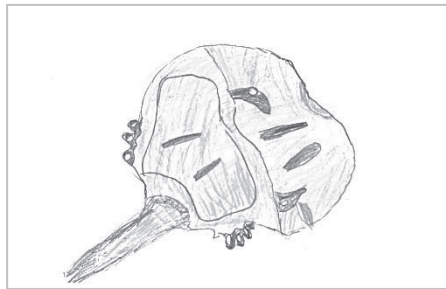
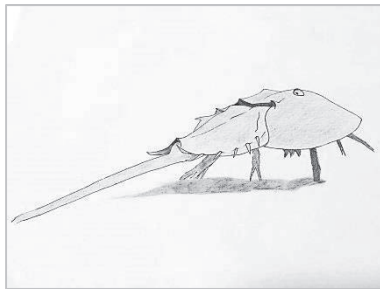
①赤坂にある自治体管理の大垣市の公共施設を、特に子育て世代を中心とする参加者たちで有効利用することができた。

②岐阜県博物館からの資料借用が可能ということを見せることで、県の機関との距離感を縮めることができた。また、海のない県におけるカブトガニ標本の有効な利用の一例となった(と思う)。

③カブトガニをめぐる実情や、進化について、古生物学のことなど、わかりやすい言葉でお話していただい、理解が深まった。

その後

①ERDG より応募の礼状が送られ、また、3人3作品が入賞し、ERDG のヤングボイスのホームページに掲載されている (<http://horseshoecrab.org/poems-tales-images/>)



【入賞作3点と参加への感謝状】

②そのほか、日本カブトガニを守る会の開放 No. 37 においても、そのワークショップの様子が報告された。

③福岡市今津でのワークショップと兄弟関係にある催しで、ERDG へはデータでの提出でよかったため、今津の公民館でも両者の絵を展示された。

